

胃がん発症リスク が確認できるABC検診

オプション
検査で
判定可能

ABC検診とは？

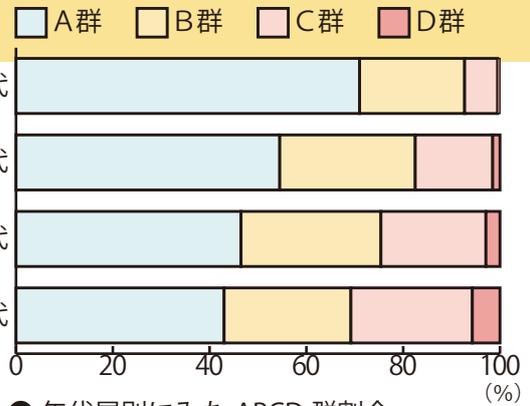
胃がん発症リスクを4段階で確認できる検査方法です。
胃がん発生には、ピロリ菌の感染とペプシノゲン検査の陽性が深く関与していることが解ってきました。この二つの検査を同時に行うことで、胃がんにかかりやすいかが判るので、胃透視や胃カメラ検査をご受診されない方には是非ともご受診いただきたい検査です。
また胃透視検査と胃カメラ検査のどちらを受けるか、選択の指標にもなります。
ただし、次のような方は正しく結果が出ないことがありますので、胃透視もしくは胃カメラ検査の受診をおすすめします。

胃の手術歴
のある方

ピロリ菌除菌
療法を受けた
ことがある方

消化器系の薬
を服用中の方

腎機能の悪い方



● 年代層別にみた ABCD 群割合
(平成 18 年高崎市医師会より)

ピロリ菌検査 (血液または便検査)

胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因となるヘリコバクター・ピロリ菌の存在を調べます

(検査料金 3,240 円)

ペプシノゲン検査 (血液検査)

胃粘膜の萎縮具合を調べます

(検査料金 5,400 円)

● ABC 検診の 4 つの群

低 胃がんのリスク 高

ABC分類	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌	—	+	+	—
ペプシノゲン	—	—	+	+
胃の健康度	健康な胃粘膜。胃の疾患にかかる可能性は低い。	胃潰瘍、十二指腸潰瘍に注意が必要。	胃粘膜の萎縮は強く、胃がん発生の危険が高い。	胃がん発生の可能性が最も高い。
年間の胃がん発生頻度	ほぼゼロ	1000人に1人	500人に1人	80人に1人
胃カメラ受診間隔	5年に1回	2~3年に1回	1年に1回	1年に1回